
異国戦記 異世界の変人軍師改

桜木文治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異国戦記 異世界の変人軍師改

【Nコード】

N6195L

【作者名】

桜木文治

【あらすじ】

気が付いたら異世界にいた変人高校生、八原整一はひょんなことから小国の軍師となってしまい・・・

異国戦記異世界の变人軍師の改良版です。

プロローグ

プロローグ

八原整一は望遠鏡で戦場を覗いていた。無数の将兵が剣や槍を交えて動かぬ屍と化してゆく。

整一は思った、(怖い)と。

もはや見なれたこの光景。これが自分の手によってもたらされたものなのだ……。

できれば今すぐこの場所から逃げ出したいとさえ思った。

しかしそれはできなかった。なぜなら彼は軍師なのだから。

昔、ドイツのとある将軍が偽の表情はNGと云ったことがあるがそれでも整一は、不安や恐れを表情に出すわけにはいかなかった。

びくついていては将兵全体の士気を落とすことにもなりかねないからだ。

それでは勝てる戦いも勝てなくなってしまう。

整一はひたすら戦場を眺める。

どうやら敵は左翼に対して攻勢をかけるつもりらしい。漆黒の鎧に覆われた騎士の群れが進撃して行くのが見えた。

(予想通りの結果になったな。)

整一はニヤツと笑うとそばにいる伝令兵に指示を伝えた。

「頃合いです。すぐに後方の主力に伝えて下さい。第3段階だ」と。

「

ハッ」

短くそう言った伝令兵は近くにつないでいた馬に乗り、主力部隊のいるの方角へと駆けて行った。

さらに整一はほかの伝令兵たちにも何かを伝え。彼らが駆けつけていくのを見ていた。

やがて、かれらがある程度の距離にまで向かったのを確認すると、整一は再び望遠鏡を構えて戦場を見守る。

それからしばらくして、右翼と中央部の部隊が前進し、左翼が後退して行くのが見えた。

（始まったか…。）

策は全部出した。今の整一にできることは、戦況を見守り、不測の事態に備えることだけだった。

・・・これは我々の住む世界とは全く別の世界で名をとどろかせたある平凡な一人の青年の物語・・・

プロローグ（後書き）

お詫び

長期にわたって連載をせずに、いきなり改装版を出したことを読者皆様にお詫び申し上げます。これからは途切れ途切れになるかもしれませんが、絶対に完結させるつもりですので、どうぞ生温かい目で見守って下さい。

第一章 とある兄妹とウォーゲーム

京都市左京区

ひと組の男女がテレビゲームをしていた。

男の方は来ている服装から考えて、近くに通う高校生のようなのだ。

少女の方は私服ではあるがどうやら中学生ぐらいのようだ。

2人がプレイしているのは一昔前の今は懐かしきファミコンだ。内容は…どうやら戦争を題材にしたものらしい。

10分後……

「ハイツ首都占領、私の勝ち！」

少女が得意げにVサインをつくる。

一方青年の方はと言つと…

「…もう少し手加減してくれ。もう何回負けたと思ってるんだ？」

と今にも泣きそうな顔をしている。よほどボコボコにされたのだろう。

少し作者としても慰めなくなった。

「しょうがないじゃない。だってお兄ちゃんなかなか勝たしてくれないんだもん。」

「戦いは勝つよりも負けないようにするのが俺のポリシーだからな。」

「そんなことは私に勝つてからいえば？まだ一回も勝ったことないじゃない。」

「うっ…」

青年はそう呻くとガクツと頭を下げた。

「さっお兄ちゃん、約束通り有り金全部渡してね。」

少女はそんな青年を満足そうに見つめながら右手を出す。

「…畜生っ覚えてるよ…。」

青年は貯金通帳そのものを少女に手渡すと自分の部屋へと逃げた。

青年の名は八原整一。どこにでもいるような平凡な高校生だった。で、先ほど整一からなけなしの貯金を巻き上げていったのが彼の妹である八原清瀬であった。

「畜生、何で負けたんだよ今回は勝てたはずなんだが……。」
部屋に逃げ込んだ整一は自らの失敗点をはじき出すのに必死になっていた。

二人のバトルは10年近く前より行われており、整一が清瀬に勝つたことはほとんどなかった。

そのため、整一の貯金はほとんどたまることはなく。たまっても清瀬に持つてかれることが常であった。で、整一はバイトとウォーゲームの研究に没頭する毎日を送ることになっていた。

今も取りあえず先ほどやったゲームをやり直して失敗点を探すのに躍起になっている。

しかしそれを1時間も続けると、さすがに疲れ始める。

さらに3時間後……。

整一はうつらうつらとしながらパソコンを操る。いまやっているのは先ほどまでやっていたのとはまた違うゲームだった。中世をモデルとしたギャルゲーだった。お年玉と勝負の合間にバイトなどでこつこつためた小金を集めてやっとこさ日本橋で購入したPCゲームだった。

やがてマウスをクリックした瞬間、ディスプレイが光に包まれた。そして光が納まった瞬間、整一の姿は何処にもなかった。

第一章 とある兄妹とウォーゲーム（後書き）

皆さんお久しぶりです

作者です

進化のないグダグダな作品です。

ご意見感想などがございましたらコメントしてください。

一人の領主の憂鬱

世界と言うものはただ一つだけ存在しているわけではない。われわれとはまた違う歴史や文化を歩んだ世界も当然存在している。

所謂パラレルワールドとかいうやつだ。

その世界はいくつかのエリアに分かれている。

そのひとつに一般的に中原と呼ばれているバロム大陸がある。亜温帯に属し四季がはつきりとしている。そしてその大陸は、いくつもの国家に分かれている。

そのひとつ小国の集合体エムデン騎士団領。さらにその中に有る小勢力に一つ、メルヌの主である

メルヌ伯フランツフォンテッセンは城のバルコニーで沈みゆく夕日を眺めながらため息をついていた。

「さて…どうしたもんかねえ」

別に恋とかそういうものではない。

彼は今、いくつもの大きな問題に直面していた。一つは最近の大陸内の情勢。具体的に言うと近年急激に力をつけ、大規模な国土拡張政策に乗り出した大陸西部の大国クロスタリア帝国の勢力が彼の領土にも迫ってきているということである。

そしてもう一つは跡取りの問題だった。

彼には三人の息子がいるのだが、いずれも後を継ぐのは自分として譲ろうとしない。

そして、当主である自分もそれについて押し回されてしまっていて明確な答えを出せずにいた。

テッセンは自分の優柔不断さに呆れつつも、差し迫りつつある脅威への対抗もしなければならなかった。

一人の領主の憂鬱（後書き）

作者です。

こんな感じの駄文になりました。

しかも短いし

文才が本気でほしいです。

それは置いといて、感想や疑問などがございましたら遠慮なくコメントして下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6195/>

異国戦記 異世界の変人軍師改

2010年10月8日23時22分発行